

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和6年6月 日（ ） 第 時限
- 3 学級 1年 組（ ） 名
- 4 使用図書 図説家庭基礎（実教出版）
- 5 単元名 第1章 自分らしい生き方と家族
- 6 単元設定の理由

生徒観

高校時代は、自分の将来を見据えながら人生の意思決定について考える重要な時期である。生き方も多様化する中で、将来の結婚や育児といった家庭生活における選択など人生の意思決定を、自分ごととして考えることが必要である。本校の1年生は、中学生時、中学生にとっての家族について捉え、今周りにいる家族とよりよい関係を築くことについて学習している。1〇HRの生徒は、今の自分について意見を伝え合うことができる。将来のよりよい生活創造のためには、生徒が、これまでの学習や他者の意見をもとに、これから自分自身が築いていく家族関係についても構想することが必要である。

教材観

本分野では、生徒がこれから家族を創造する主体として「男女が協力して家庭を築くことの意義や、現代の家族・家庭の機能や特徴について歴史的、文化的、社会的変化との関連から理解を深め、考察できるようにすること」（学習指導要領）をねらいとしている。本単元では、生徒が将来、自らの責任ある意思決定に基づいて家庭を築き、地域社会のよりよい生活を創造できるようにするため、就労や結婚等の制度、家庭生活について4コマ漫画やシミュレーション教材、婚姻届等の実物教材を活用し、主体的に実践しようとする態度を育成する。本時では、「事実婚」について取り上げ、男女共同参画社会や法律と家族との関わりに気づかせ、多様なライフスタイルや家族像に触れながらよりよい生活を追求することがよりよい社会の実現に寄与することに気づかせたい。

指導観

近年の家族関係の多様化に伴い、家庭における生活課題やその解決方法も多様化している。その中で、よりよく生きるためには固定観念にとらわれず柔軟に選択する力が必要である。また、家族が課題に直面した際にも、家族で協力し合ったり、社会のサポート体制を取り入れたりしながら立ち向かう「レジリエンス力」が求められる。本単元ではマイクロディベート等のアクティブラーニングを取り入れ、生徒に物事を多角的に考え、判断する力を身に付けさせることで、家族に対する価値観の変容を促す。

7 単元の目標

- （1）生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めることができる。
- （2）家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察できる。
- （3）様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	家庭や地域のよりよい生活を想像するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性を考え工夫し根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

9 指導と評価の計画（全7時間）

第1次 青年期の自立・・・2時間

第2次 家族・家庭・・・5時間

第1時 生活時間から見えてくるもの

第2時 男女共同参画社会をめざして

第3時 現代の家族・家庭に関する法律

第4時 現代の家族・家庭と社会との関連（本時4／5）

第5時 現代の家族・家庭の課題

10 本時の指導目標

家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考え、工夫することができる。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入	○前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○結婚観やライフスタイルの多様化により家族に関する法律が時代の流れとともに変化したことを振り返る。		
	○家族の定義や範囲を考えてMetaMoJiに入力する。	○生徒の入力画面をリアルタイムアンケートとして提示し、傾向を伝える。		
	将来、よりよい家庭生活を築くために多様な価値観に触れながら何を大切にしたいか考えよう。			
展開	○本時の活動内容について知る。	○本時の活動を知らせ、マイクロディベートの方法について説明する。		
	○「結婚は法律婚・事実婚」についてグループでマイクロディベートを実施する。	○「家族の観念」と「姓の選択」の各観念を確認し、自分ごととして考えられるようにする。		
	○グループで判定したディベートの結果をまとめる。	○グループの意見を全体に提示し、気づきを確認させる。		
	○全体の意見を確認する。	○よりよい家族の形成に必要な意思決定と協力、社会の仕組み等について知らせる。		
まとめ	○本時の学習をふり振り返り、将来の家庭生活について思考し、ワークシートにまとめる。	○本時の学びをもとに思考したことについて、ワークシートにまとめさせる。	よりよい家庭生活を形成するために、自己の意思決定に基づき、家族の構成員が協力して家庭を築くことの重要性について考え、工夫している。 【思考・判断・表現】	ワークシート

1 2 評価の目安と目標実現のための手立て

A	十分満足できる	よりよい家庭生活を形成するために、現代の家族・家庭生活の課題を理解し、家庭と社会との関わりを踏まえながら、自己の意思決定に基づき、家族の構成員が協力して家庭を築くことの重要性について考え、工夫している。
B	おおむね満足できる	よりよい家庭生活を形成するために、自己の意思決定に基づき、家族の構成員が協力して家庭を築くことの重要性について考え、工夫している。
C	B を満たさない生徒への具体的な手立て	現代の家族・家庭生活に対する価値観が個人のライフスタイルの多様化に伴って変化していることを踏まえさせながら、将来の家族像について、自らのライフプランニングと照らし合わせながら考えさせる。